



代表取締役社長 吉田 哲也

企業概要

印刷から加工まで軟包装印刷の内製化を進め、 小ロット・短納期・省コストを実現

概要

軟包装資材のオフセット印刷機と互換性のある「ミドル幅ドライラミネーター」を導入し、ラミネート加工の内製化による一貫生産体制を構築

本事業への取り組みの経緯

近年、短期間で次々と新商品が生み出され、めまぐるしく変化する製品サイクルの中、多くの業界で多品種少量生産が求められている。そんな中、店頭商品パッケージはこれまで主流だった紙から、中身が確認できるポリエチレンやポリプロピレンなどのフィルム素材を用い、コンパクトに捨てられる軟包装へと変化した。しかし、従来のグラビア印刷はロット数が大きいいため、多くの企業がデッドストックに悩みを抱えていた。

そこで当社では、小ロットに対応できるオフセット印刷が可能な軟包装印刷機を導入。欲しいものを欲しい分だけオンデマンドで印刷することで、短納期・コストダウンを実現した。しかし軟包装は、印刷後にインク付着を防止するため、ラミネート加工を施す必要があり、その点に関しては、納期やコストがかかる外注への依頼を余儀なくされていた。そのため本事業では、印刷から後加工までを一貫して内製化することにより、さらなる納期短縮とコストダウンを目指した。

事業概要

本事業においては、当社が以前導入した既設の軟包装オフセット印刷機と互換性がある「ミドル幅ドライラミネーター」を導入。従来外注依存していたラミネート加工を内製化することで、納期短縮、品質の向上、歩留りの向上に対応可能な一貫生産体制の確立を目指した。



導入したミドル幅ドライラミネーター

事業成果

今回導入した「ミドル幅ドライラミネーター」は、本設備を社内のクリーンルームに設置し、品質確保を達成。納期についても、従来の外注依頼で336時間を要していたものを、内製化によって21.2時間まで短縮することができ、コストにあっては従来一枚当たり14.50円を11.28円に抑えるに至った。内製化により、顧客に対してスピーディーかつ安価な商品を提供できるのはもちろん、確実な納期での納品を約束することができるようになった。

また歩留り向上にかかわる不良率も、従来の10%から6.6%へと改善しており、製造コストのロス削減につながっている。

事業の活用状況 (補助事業実施後の取り組み)

当社が導入した軟包装のオフセット印刷は、全国でも他社に先駆けた取り組みであり、国内外から多くの企業が視察に訪れる等、予想以上の反響にニーズの高まりを感じている。特に、小ロット・短納期・コストダウンが図れる当社の商品は、テスト販売や期間限定発売などにも活用でき、最近では、食品業界やペットフード、化粧品、医療品など、それまで手掛けていなかった分野まで拡大。パッケージだけでなく、弁当用のおにぎりラップやおかずカップ等、その延長線上にある商品まで手掛けるに至っている。今後は、既存顧客の多品種小ロット生産の要望に応えながら、さらに新たな分野への進出・新規顧客獲得に向けて、積極的に営業活動を展開していく。



おにぎりラップ



おにぎりラップ ロールタイプ



軟包装袋サンプル